



◆其の七十六

市^し政^{せい}施^し行^{こう}50^{ねん}年

～筑紫野市が生まれた時代～

筑紫野町が市制施行により「筑紫野市」となった昭和47年から、今年で50年になります。これを記念して、本コーナーで24回にわたり「ちくしの」の歴史をたどってみます。

第1回の今回は、「筑紫野市」が誕生した昭和47年前後の時代を振り返ります。

昭和40年代後半の日本は高度経済成長の絶頂期であり、技術力、経済力で存在感を示していました。一方、世界に目を向けると「冷戦」真ただ中で核戦争が現実的に意識される時代でもありました。身近なところでは、昭和47年10月に2頭のパンダ「カンカン」と「ランラン」が中国から上野動物園



にやってきました。昨年双子が生まれて話題になった「上野のパンダ」と「筑紫野市」は、同じ年にスタートしていたのです。

カラーテレビが家庭に普及するのもこの時代のことです。当時は薄くて壁に掛けられるテレビや、

電話、テレビ、カメラ、コンピュータなど一台何役にもなり手のひらサイズの便利な機械（スマートフォン）などは未来の世界の秘密道具としか思えませんでした。

山陽新幹線が博多駅まで開通し、九州自動車道太宰府ICが開業したのが昭和50年3月なので、「筑紫野市」誕生の時点ではどちらも完成していません。

このように、「筑紫野市」の50年は、想像以上に大きな変化があった時代だと言えます。

関文化財課



筑紫野市フェイスブック
<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター
<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント
<https://lin.ee/6X9wMoy>